

優秀賞（事務次官賞）

作文の部 中学生

『土砂災害防止について』

萩市立萩西中学校
二年生 長岡 珠希

今年も、七月上旬に集中豪雨による土砂災害が起きてしまいました。だけど、今年は去年の土砂災害の教訓を生かして、早めの警報が出たので、すぐに避難してケガ人や死者を出さずにすみました。テレビやラジオで土砂災害のニュースを見た時に、山の近くに住んでいる人たちの家は、土砂にうもれて、崩れていたり、数メートルも流され信じられない光景がありました。また、収穫間近の野菜や果物が全滅して農家の人々は肩を落としていました。雨さえ降らなければと思いましたが雨が降らなければ作物は育ちません。私たち人間は自然に逆らうことができないのです。

私の祖父母の家は、去年の集中豪雨の時に、土砂が庭の方に流れ込んでしまう被害に遭いました。家の建物のすぐ裏に山の急斜面がせまっています。またその山の開発により、「墓地ができたために、山の水の流れが変わってしまった」と祖父が言っていました。家のすぐそばを流れている小川は、普段はとてもおだやかに流れています。だけど、雨が降るととたんに音をたて、水量が増しているのがわかります。祖父母の家の小川が流れていた所に小さな石や砂、木片などが流れてきて庭の方に土砂が流れてきました。その時、祖父は雨の降る中、一生懸命にそのつまった所を外そうと作業したそうです。大事には至らなかったものの、そのような場所で作業するのは、とても危険だったと言っていました。祖父母は、いつも雨が降ると、「畑の作物は大丈夫じゃろうか」「山は崩れんかのう」と心配しています。その時は、「いつでも私の家に避難すればいいよ」と話しています。

今までの私は、土砂災害があっても、テレビの中の出来事で人事のように思っていました。七月の大雨の時に阿武川ダムでの放流がありました。ダムが、萩市を水の被害から守ってくれと知りました。今は安全な場所に家があるけど、川の水が上昇して、家の近くまで水が来るかもしれないと予測して、放流している時は、川に近づかないようにしたいです。もし、自分の家が土砂災害に遭遇したら、逃げるしかないと思います。土砂災害を防ぐためには、気象情報や土砂災害に関する情報を正しく理解しておくことや危険な箇所を調べておくこと、普段から家族で避難場所や方法を確認しておくことをこころがけたいです。

今年の七月に、萩市より「萩市河川洪水ハザードマップ（洪水避難地図）」が配られたことを母から聞いて知りました。私の住んでいる地域の土砂災害危険箇所や避難場所を確認することができました。幸いにも今、住んでいる所は比較的 안전한場所だったので安心しました。私の家では、今まで、非常時持出品を準備していなかったことに気がきました。これを機会に家族と話し合って準備することに決めました。

最後に「知らせる努力」と「知る努力」という言葉を聞いたことがあります。山口県のホームページより行政機関が土砂災害から県民の生命や身体を守るために、土砂災害の危険性や所在情報などを、最大限の努力で、県民周知することです。これが「知らせる努力」です。一方、県民も行政から提供される情報を十分に把握するため「知る努力」を惜しまないことです。本当は、災害は起こってほしくはないのだけれど、いつ、土砂災害が起きても、おかしくないのだから、焦らずに、落ち着いた行動ができるようにしておきたいです。例えば、学校での避難訓練がある時みたいに、実際に災害があることを想定し、行動することを経験しておくことも必要だと思います。人は、初めての災害で慌てると、正しい判断ができずにパニックになります。一人がそうになると連鎖して、大きなパニックになります。一度経験しておくこと、次はこうなる、こうしたらいいなどと落ちついた行動がとれるようになると思います。